

証券コード：4635

東証スタンダード市場

TOKYOink

東京インキ株式会社

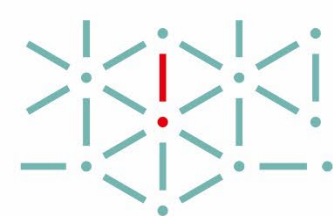
2025年3月期 決算補足説明資料

(2025年5月13日決算発表)



「伝える」
「彩る」
「守る」ことで、
豊かな未来を実現する





1. 2025年3月期 決算概況

- (1) エグゼクティブサマリ
- (2) 連結損益計算書
- (3) 売上高 前年比増減要因分析
- (4) 営業利益 前年比増減要因分析
- (5) セグメント別業績
- (6) 当期トピックス
- (7) 連結貸借対照表
- (8) 連結キャッシュ・フロー

2. 株主還元

- (1) 株主還元方針・取り組み
- (2) 配当金・配当性向
- (3) 株主優待制度

3. 2026年3月期 業績予想

- (1) 次期業績予想
- (2) セグメント別戦略

4. 参考資料

1. 2025年3月期 決算概況

TOKYOink



(1) エグゼクティブサマリ

(単位：百万円)

- ・製品販売価格改定が進捗し、売上高468億円（前年比+6.6%）で着地
- ・営業利益13.0億円（同+70.3%）、当期純利益11.8億円（同+33.9%）と大幅増益

	24年3月期	25年3月期	前年比 増減額	前年比 増減率	コメント
売上高	43,922	46,806	+2,884	+6.6%	・各事業の製品販売価格改定の進捗により、前年比増収増益
営業利益	768	1,309	+540	+70.3%	
経常利益	986	705	▲281	▲ 28.5%	・米国連結子会社が出資する持株会社の出資先において先行投資による一時的な業績悪化を受けたことから、のれん相当額の回収見込みを精査した結果、出資金運用損を営業外費用に計上し、前年比減益
親会社株主に帰属する 当期純利益	881	1,180	+298	+33.9%	・政策保有株式の縮減に伴う有価証券売却益や連結子会社の火災保険金の計上等により、前年比増益



(2) 連結損益計算書

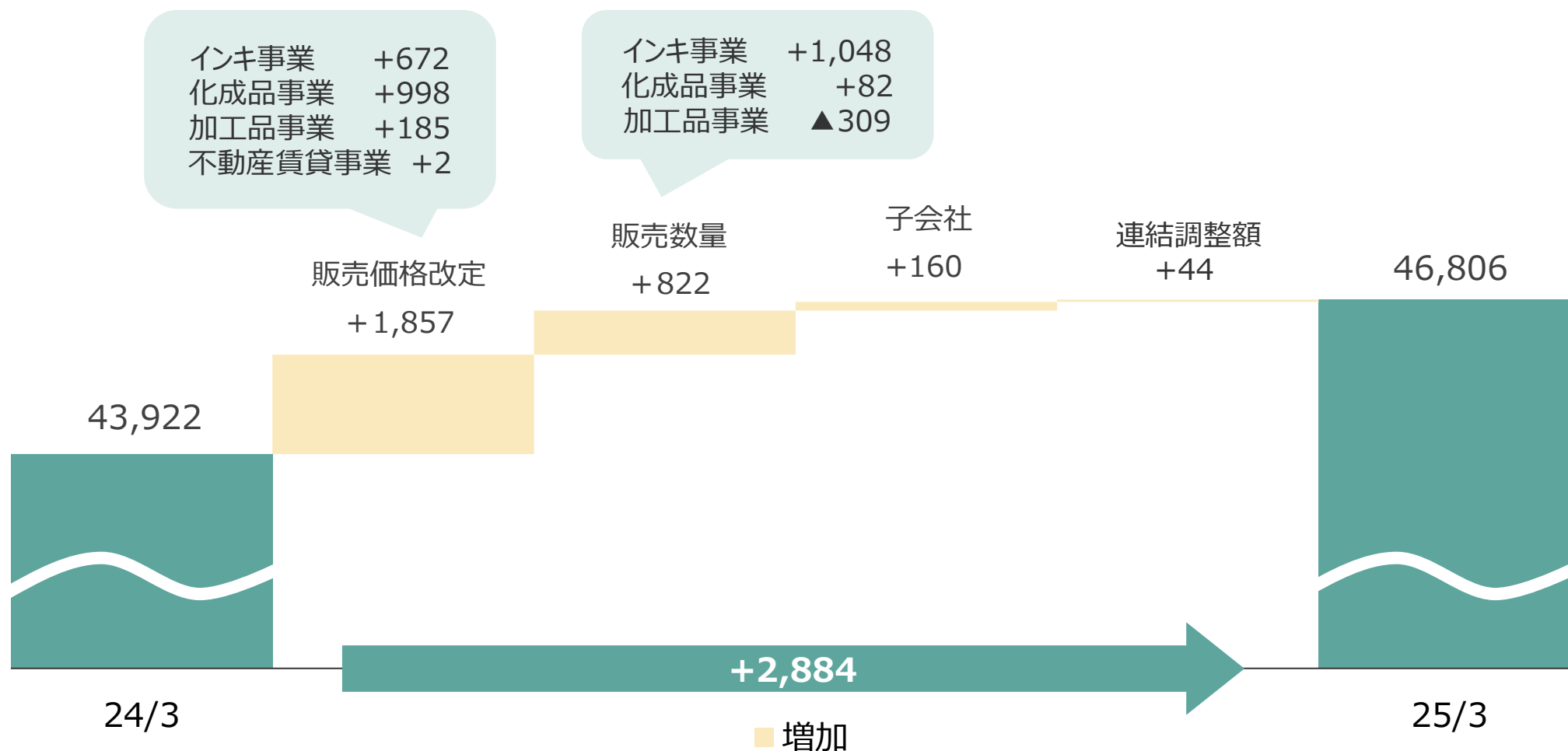
(単位：百万円)

	24年3月期	構成比 (%)	25年3月期	構成比 (%)	増減額	増減率 (%)	業績予想 25年3月21日 公表値	増減額	増減率 (%)
売上高	43,922	100.0	46,806	100.0	+2,884	+6.6	46,700	+106	+0.2
売上原価	37,431	85.2	39,631	84.7	+2,199	+5.9	-	-	-
売上総利益	6,490	14.8	7,175	15.3	+684	+10.5	-	-	-
販売費及び一般管理費	5,722	13.0	5,865	12.5	+143	+2.5	-	-	-
営業利益	768	1.8	1,309	2.8	+540	+70.3	1,310	▲0	▲0.0
営業外損益	218	0.5	▲ 603	▲ 1.3	▲ 821	-	-	-	-
経常利益	986	2.2	705	1.5	▲ 281	▲ 28.5	720	▲14	▲2.0
特別損益	152	0.3	874	1.9	+721	+472.7	-	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	881	2.0	1,180	2.5	+298	+33.9	1,150	+30	+2.6
ROE（自己資本当期純利益率、%）	3.1	-	4.0	-	+0.9pt	-	-	-	-

(3) 売上高 前年比増減要因分析

(単位：百万円)

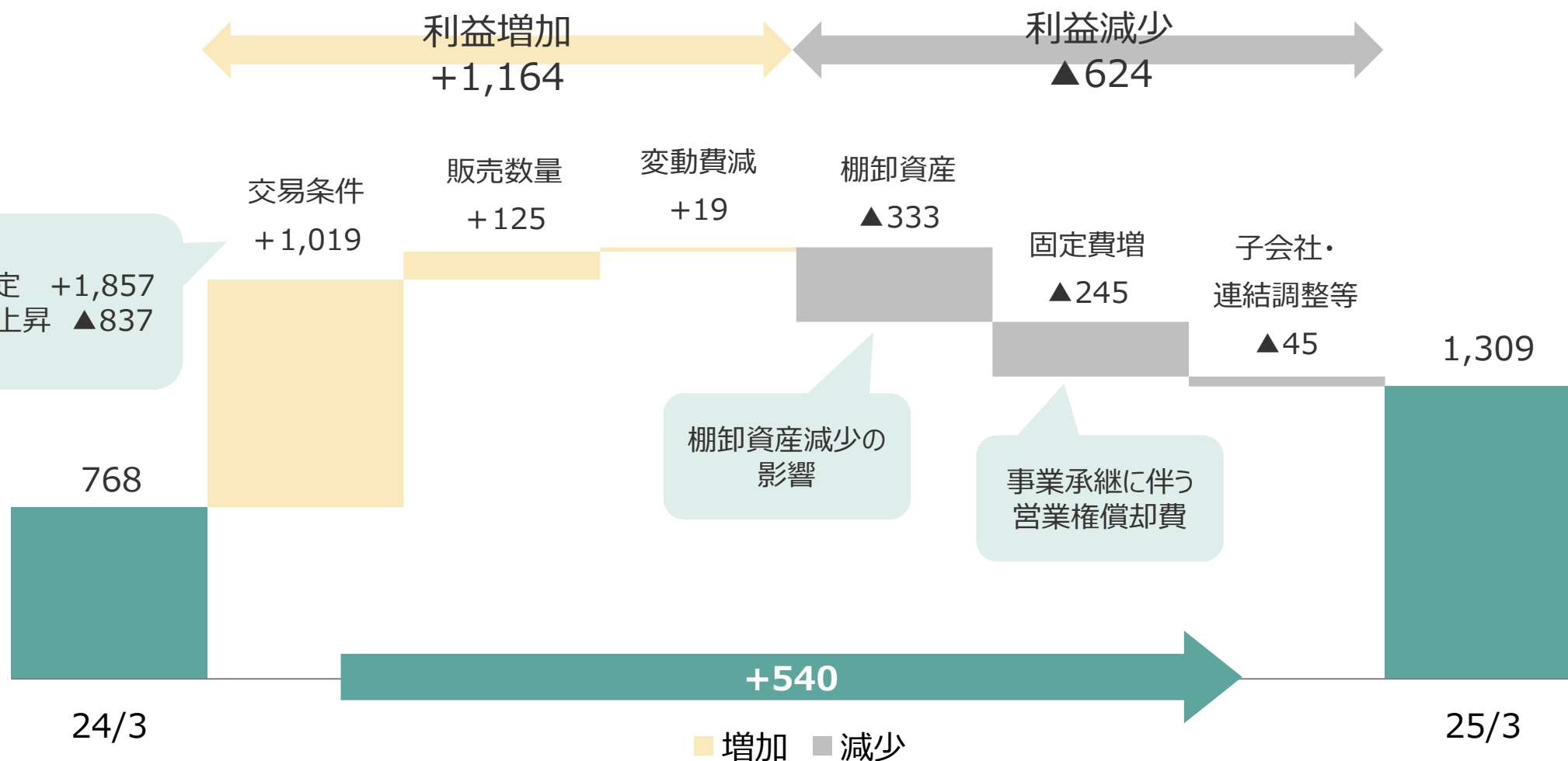
- ・製品販売価格改定効果により、前年比増収（主に化成品事業が大きく貢献）
- ・インキ事業の販売活動強化並びにグラビアインキの事業承継による製品販売数量の増加も寄与



(4) 営業利益 前年比増減要因分析

(単位：百万円)

製品販売価格改定による交易条件の改善により、前年比増益



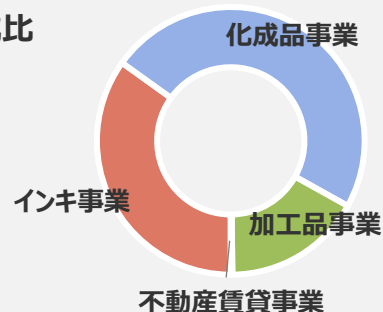
(5) セグメント別業績 – サマリー –

(単位：百万円)

- ・インキ事業、化成品事業は製品販売価格改定により収益力が改善し、前年比増収増益
- ・加工品事業は生産体制の再構築に伴う一時的な経費増加や、ネトロン®の受注減等により前年比減収減益

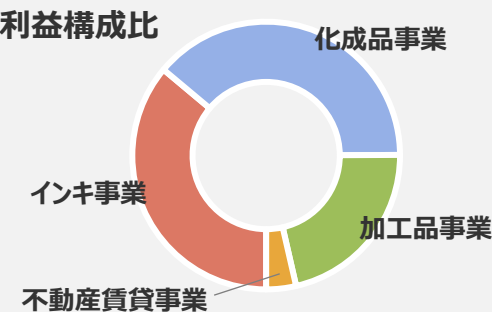
報告セグメント	売上高				セグメント利益				セグメント利益率		
	24年3月期	25年3月期	増減額	増減率 (%)	24年3月期	25年3月期	増減額	増減率 (%)	24年3月期 (%)	25年3月期 (%)	増減 (pt)
インキ事業	14,529	16,341	+1,811	+12.5	288	563	+274	+95.3	2.0	3.4	+1.4
化成品事業	21,350	22,549	+1,199	+5.6	190	605	+415	+217.7	0.9	2.7	+1.8
加工品事業	7,953	7,825	▲127	▲1.6	516	335	▲181	▲35.1	6.5	4.3	▲2.2
不動産賃貸事業	88	89	+1	+1.2	55	56	+0	+1.6	62.3	62.5	+0.2
セグメント合計	43,922	46,806	+2,884	+6.6	1,050	1,560	+509	+48.5	2.4	3.3	+0.9
全社費用他 ※					▲ 281	▲ 251	+30	+11.0			
連結営業利益					768	1,309	+540	+70.3			

売上高構成比



インキ事業	34.9%
化成品事業	48.2%
加工品事業	16.7%
不動産賃貸事業	0.2%

セグメント利益構成比



インキ事業	36.1%
化成品事業	38.8%
加工品事業	21.5%
不動産賃貸事業	3.6%

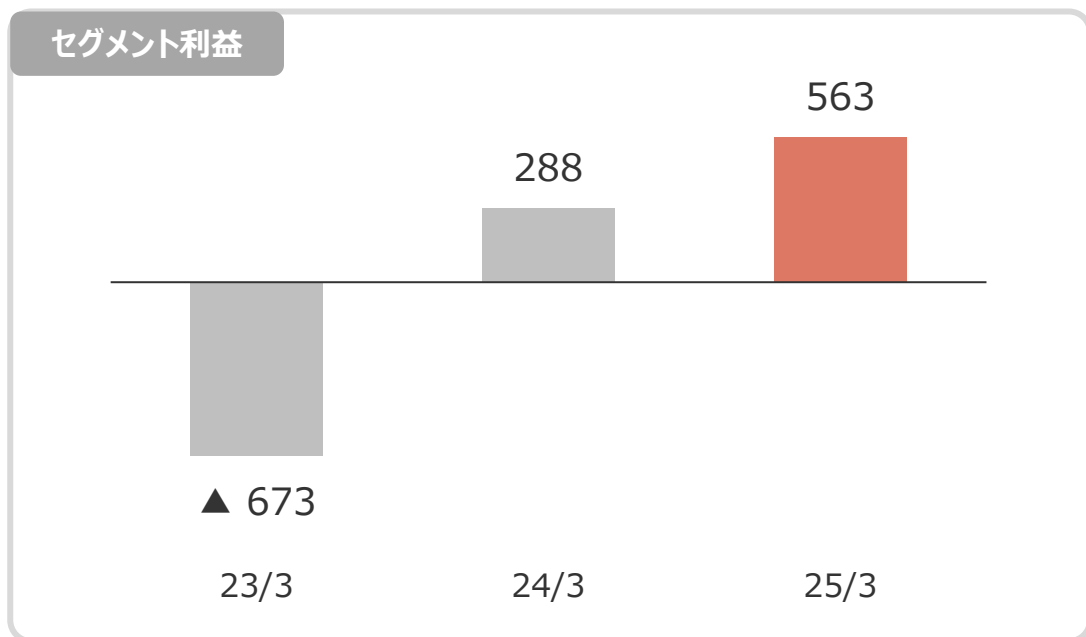
(5) セグメント別業績 – インキ事業 –

(単位：百万円)

売上高163億円（前年比＋12.5%）、セグメント利益5.6億円（同＋95.3%）で増収増益

	24年3月期	25年3月期	増減額	増減率 (%)
売上高	14,529	16,341	+1,811	+12.5
セグメント利益	288	563	+274	+95.3

セグメント利益率			
	24年3月期 (%)	25年3月期 (%)	増減 (pt)
■ オフセットインキ	3.6	4.5	+0.9
■ グラビアインキ	▲4.6	▲4.5	+0.1
■ インクジェットインキ	9.8	14.1	+4.3



(5) セグメント別業績 – インキ事業 –

製品販売価格改定および重要顧客への販売強化、グラビアインキの事業承継による事業領域拡大を実施

25年3月期 当社の主な取り組み

■ オフセットインキ	・オフセット輪転インキに資源を集中し、収益を確保
■ グラビアインキ	・グラビアインキの事業承継（事業領域拡大）
■ インクジェットインク	・受託元との関係強化を推進
■ サステナブル対応製品	・サステナブル対応製品の開発・拡販 （高バイオマスオフ輪インキ、ライスインキ、機能性コート剤等）



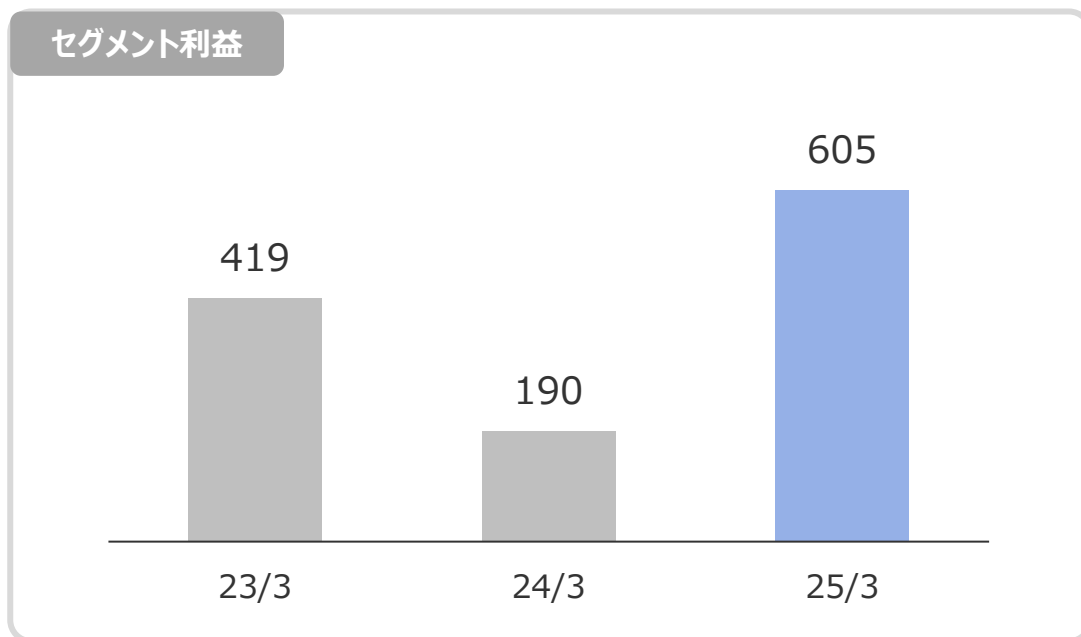
(5) セグメント別業績 – 化成品事業 –

(単位：百万円)

売上高225億円（前年比＋5.6%）、セグメント利益6.0億円（同＋217.7%）で増収増益

	24年3月期	25年3月期	増減額	増減率 (%)
売上高	21,350	22,549	+1,199	+5.6
セグメント利益	190	605	+415	+217.7

セグメント利益率			
	24年3月期 (%)	25年3月期 (%)	増減 (pt)
■ 自社製品	4.9	4.7	▲0.2
■ 受託製品	▲10.0	▲3.0	+7.0
■ 海外（タイ）	20.8	20.8	▲0.0



(5) セグメント別業績 – 化成品事業 –

製品販売価格改定および、国内自動車生産台数減少の影響が継続する中で自動車用途向け製品の販売強化を実施

25年3月期 当社の主な取り組み

- | | |
|--------------|--|
| ■ 自社製品 | ・自動車用途は内外装向け製品における顧客ニーズへの対応実施 |
| ■ 受託製品 | ・低収益製品の整理に着手 |
| ■ 海外（タイ） | ・受託製品は顧客の在庫調整に伴う販売減少からの回復に向けた対応実施
および需要増の光学用途製品対応を強化 |
| ■ サステナブル対応製品 | ・プラスチックリサイクルに貢献するサステナブル対応製品の開発・拡販
(液状マスターバッチ、バイオプラスチックベースの着色剤、
リサイクル材活用の検討等) |



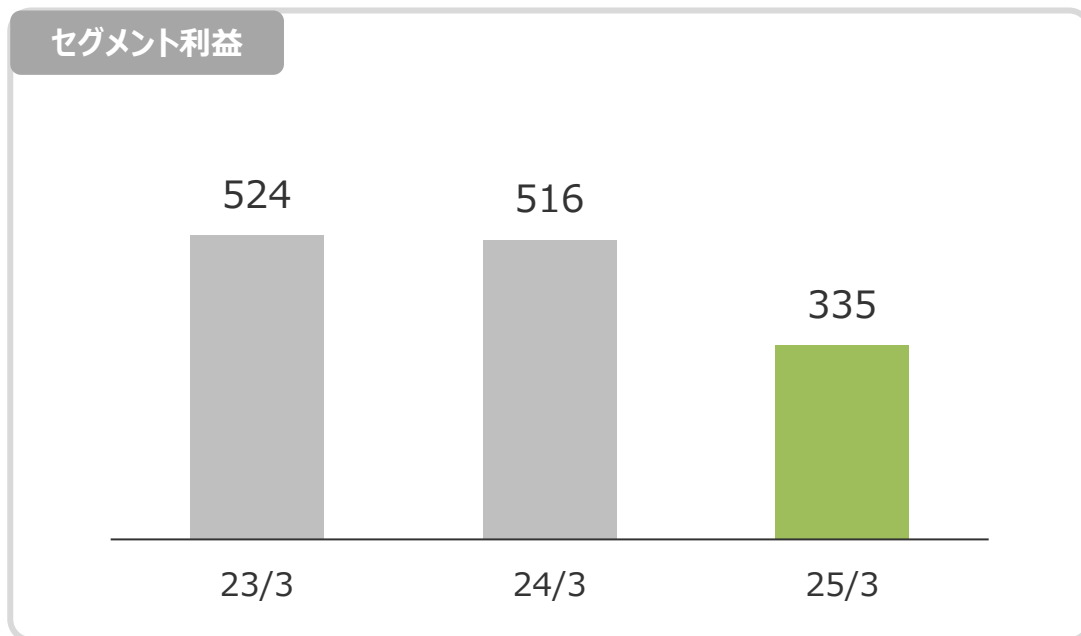
(5) セグメント別業績 – 加工品事業 –

(単位：百万円)

売上高78億円（前年比▲1.6%）、セグメント利益3.3億円（同▲35.1%）で減収減益

	24年3月期	25年3月期	増減額	増減率 (%)
売上高	7,953	7,825	▲127	▲1.6
セグメント利益	516	335	▲181	▲35.1

セグメント利益率			
	24年3月期 (%)	25年3月期 (%)	増減 (pt)
■ ネットロン®	▲0.4	▲12.2	▲11.8
■ 一軸延伸フィルム	0.8	2.9	+2.1
■ 土木資材	15.8	18.9	+3.1
■ 農業資材	1.0	1.0	+0.0

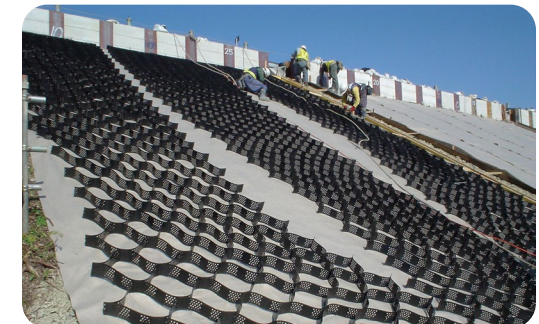


(5) セグメント別業績 – 加工品事業 –

製品販売価格改定およびネトロン®生産体制再構築による生産効率向上や、各製品の販売活動強化を実施

25年3月期 当社の主な取り組み

■ ネトロン®	・生産効率向上に向けた生産体制の再構築実施
■ 一軸延伸フィルム	・食品包装および産業用途の販売活動を強化
■ 土木資材	・防災・減災用途で使用するジオセル工法の販売活動を強化
■ 農業資材	・合理化に貢献する機能性農業資材の販売活動を強化
■ サステナブル対応製品	・サステナブル対応製品の開発・拡販 (水処理用資材、ジオセル工法、機能性農業用資材)



本事業承継により、「医薬包装製品」の分野に新規参入

- 株式会社T&K TOKAからの同社グラビアインキ関連事業承継概要
 - ・2023年9月29日開催の取締役会において事業譲渡契約を締結することについて決議し、同日付で事業譲渡契約を締結
 - ・2025年3月31日付にて対象事業承継が完了

対象事業承継の概要	
対象事業の内容	グラビアインキ・フレキシインキの設計、製造販売に関する事業
資産	営業権
承継価額	470百万円
主な承継製品	・医薬包装製品 ・表刷り、アルミキャップ、その他インキ

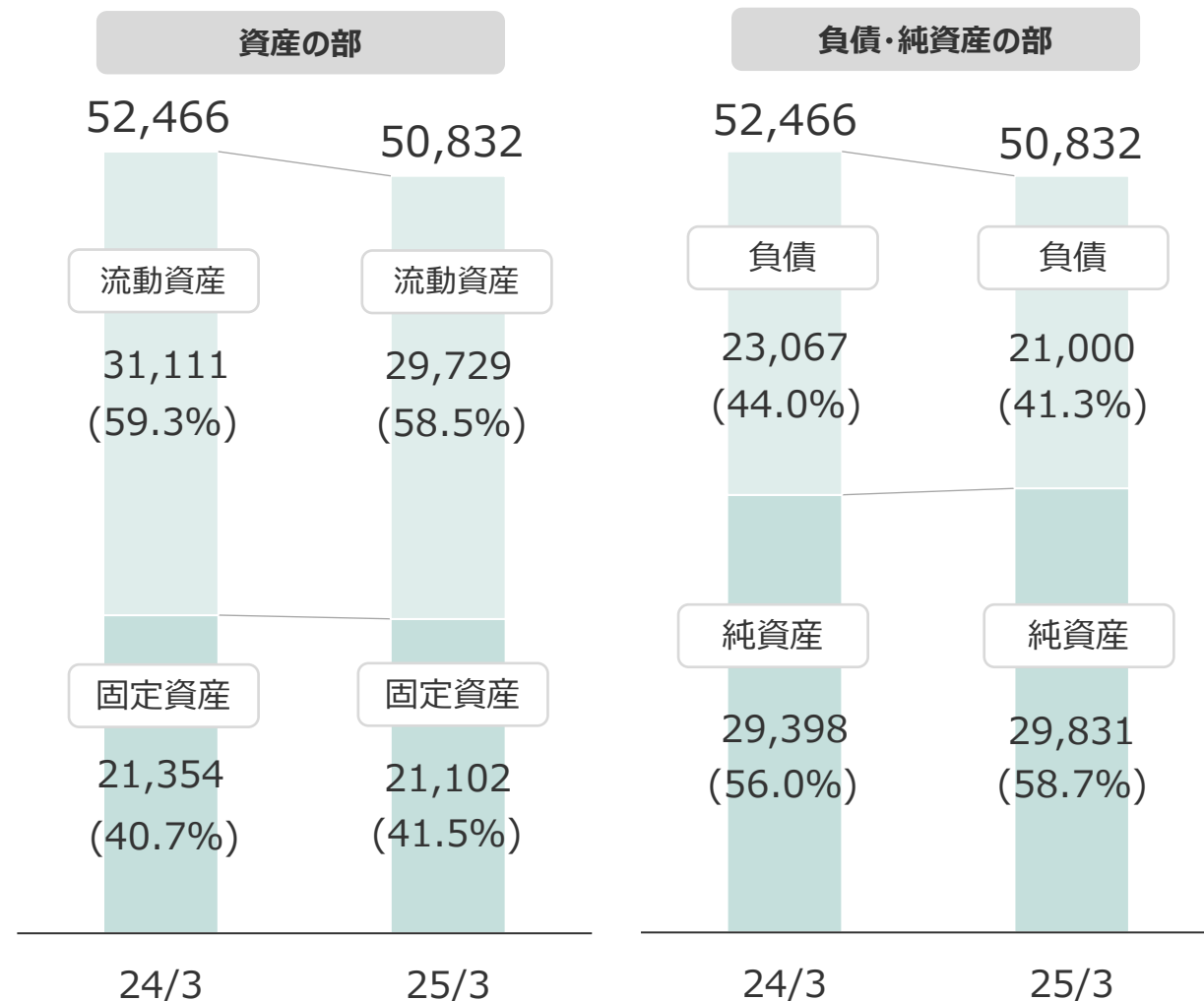
当社がこれまで参入していなかった医薬包装製品の分野に新規参入
この分野への展開にあたっては、当社連結子会社である荒川塗料工業株式会社の生産体制も活用
グループ全体としての相乗効果（シナジー）を発揮し、事業の成長を図る

(7) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

総資産は508億円（前年比▲16億円）

資産効率を重視した経営ヘシフトし、バランスシートのスリム化を推進



資産

前期末比▲1,634百万円（▲3.1%）

●流動資産

- ・資産効率化による手持現預金等の見直しに伴う減少
- ・前期 月末休日影響、当期 債権流動化実施による売上債権減少
- ・棚卸資産の減少

●固定資産

- ・設備投資による有形固定資産の増加、政策保有株式の縮減

負債

前期末比▲2,066百万円（▲9.0%）

●流動負債

- ・前期 月末休日影響による仕入債務減少
- ・債権流動化実施による短期借入金の減少

●固定負債

- ・役員退職慰労引当金の減少

純資産

前期末比+432百万円（+1.5%）

- ・利益剰余金の増加
- ・自己株式の取得による自己株式の減少

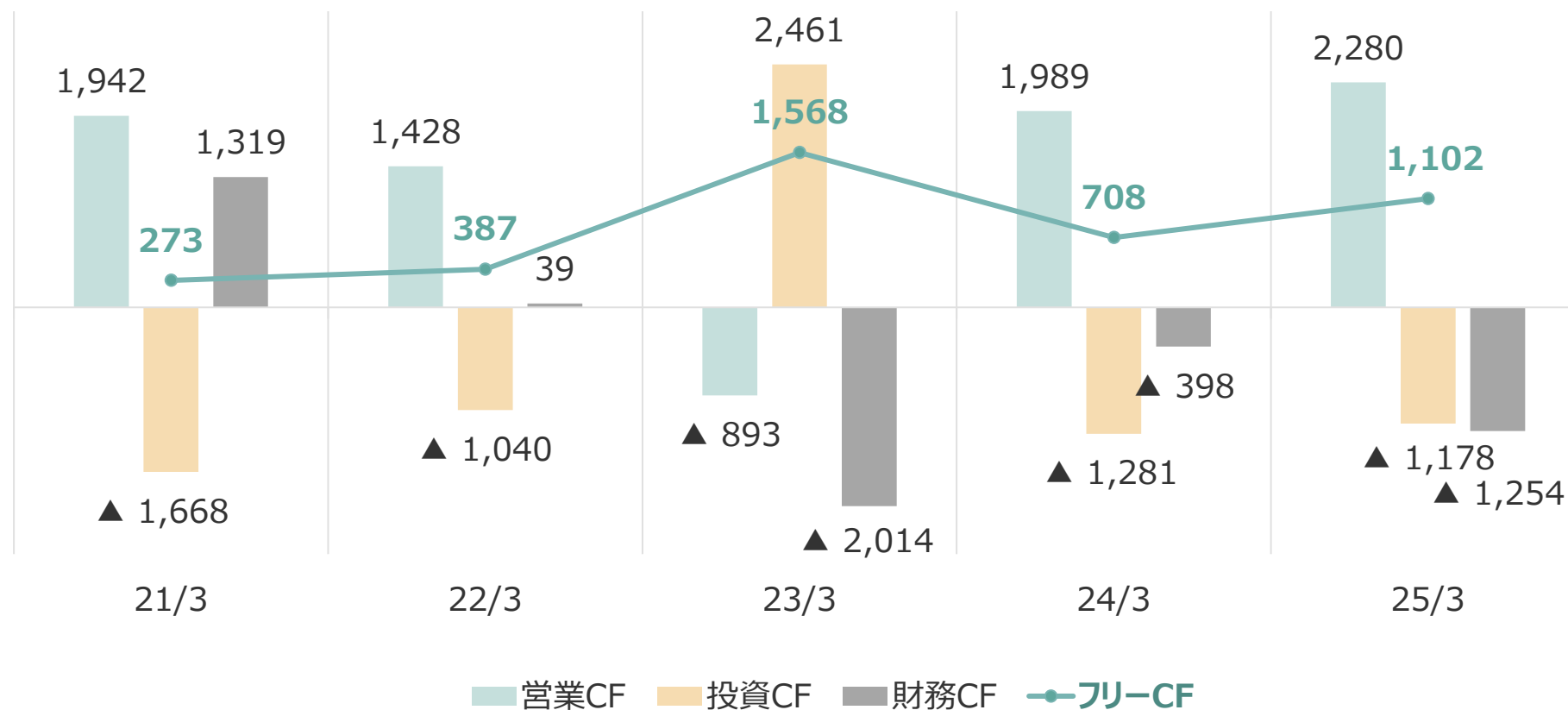
(8) 連結キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

25年3月期のフリーCFは11億円（前年比+3.9億円）

営業CF：製品販売価格改定による収益力の向上に加え、債権流動化や在庫削減の取り組みにより、収入増加

投資CF：成長に向けた積極的な設備投資により支出は増加するも、政策保有株式の売却も進める



2. 株主還元

TOKYOink



(1) 株主還元方針・取り組み

長期ビジョン「TOKYOink Vision 2030」達成に向けて

資本政策・財務戦略

- 株主資本の活用を最大化（BSマネジメント）
- 強固な財務基盤の確保
- 株主還元の充実

株主価値向上・持続的成長に向け
3つのバランスを取ることを基本方針とする

「持続的な企業価値向上に向けた取り組み ～資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応～」

配当方針

- 配当の基本方針：安定的かつ継続的な配当実施
- 配当性向40%以上またはDOE1.0%以上

株主還元の充実

	25年3月期～28年3月期	29年3月期～31年3月期	合計
配当	25億円	25億円	総額50億円
自己株式取得	5億円	15億円	総額20億円

25年3月期 取り組み

自己株式取得

- 普通株式15万株（上限）、株式取得価額総額5億円（上限）を25年2月10日～11月10日にて市場買付け

期末配当予想の修正

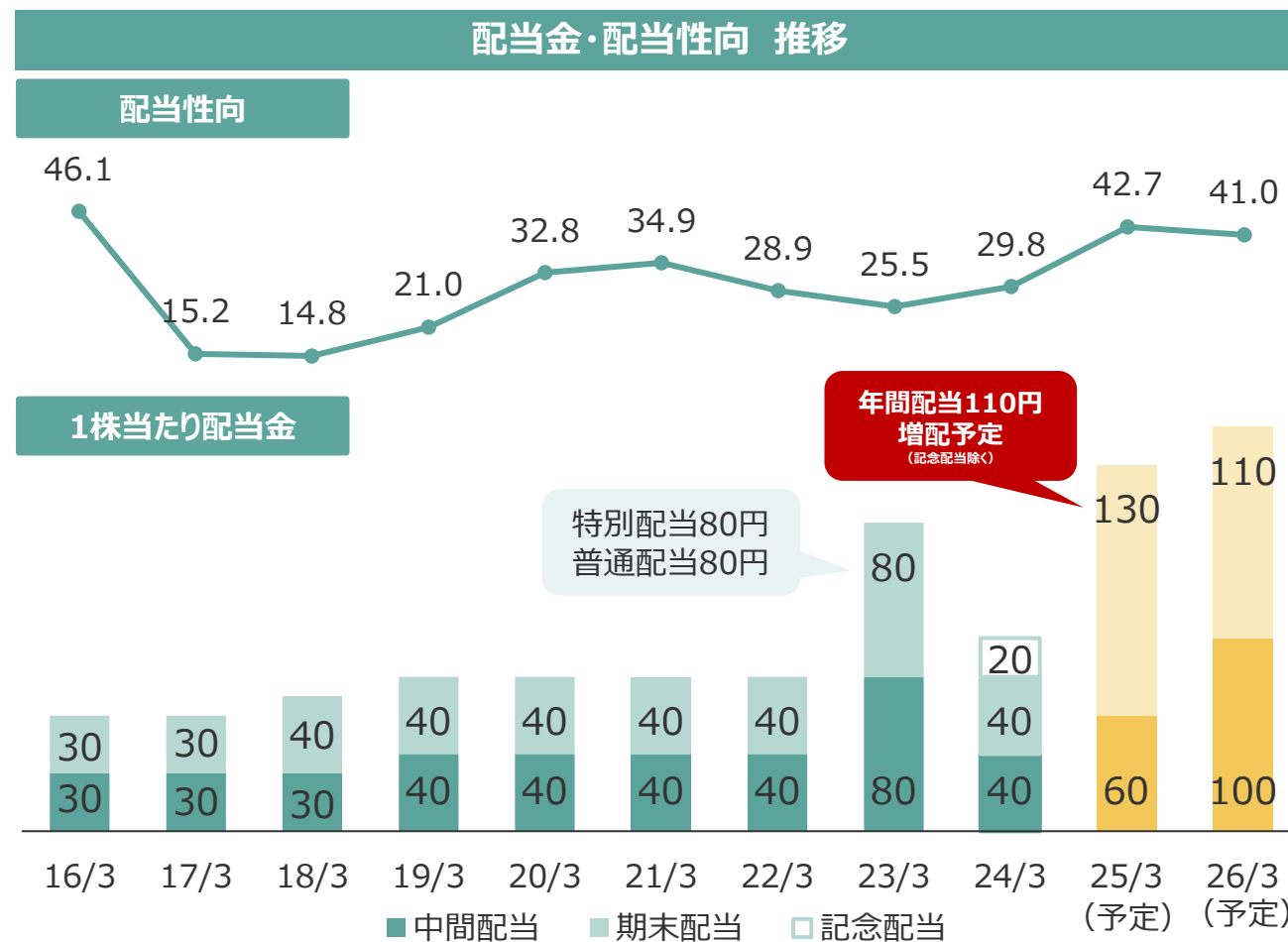
- 上記方針と25年3月期業績に基づき増配
1株当たり100円（24年11月7日公表）⇒1株当たり130円（25年3月21日公表）

(2) 配当金・配当性向

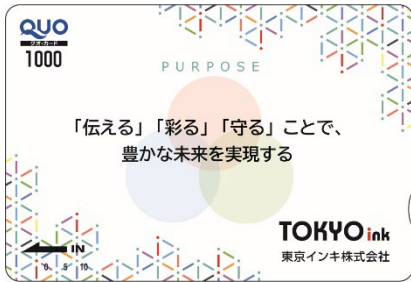
(単位：円、%)

25年3月期の普通配当は通期で190円（前年比+110円の増配）を予定

	25年3月期（予定）	24年3月期比
中間配当	普通配当 1株当たり 60円	+20円
期末配当	普通配当 1株当たり 130円	+90円
年間配当 (記念配当除く)	190円	+110円



(3) 株主優待制度

株主優待制度	
基準日	毎年3月31日
保有株式数	100株以上
株主優待制度の内容	オリジナルクオカード1,000円分 



長期保有株主様向け
300株以上かつ3年以上（※）保有の場合、 さらに オリジナルクオカード1,000円分を贈呈 （※）3年前から当年までのすべての基準日において、 株主番号が継続して同一の株主様

3. 2026年3月期 業績予想

TOKYOink



(1) 次期業績予想

(単位：百万円)

長期ビジョン「TOKYOink Vision 2030」達成に向けた中期経営計画「TOKYOink 2027」を策定し、
25年4月より始動

26年3月期 連結業績予想	第2四半期	通期
売上高	22,800	46,000
営業利益	550	1,300
経常利益	630	1,450
親会社株主に帰属する 当期純利益	510	1,300



通期 連結業績予想 セグメント別	インキ事業	化成品事業	加工品事業	不動産賃貸 事業	セグメント 合計	全社費用 他
売上高	16,300	21,550	8,060	90	46,000	—
セグメント利益	520	360	530	60	1,470	▲170

中期経営計画「TOKYOink 2027」は25年5月13日に開示しております。
https://www.tokyoink.co.jp/ir/ir_library/management_plan/



上記業績予想は25年5月13日時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の実績等は、様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

(2) セグメント別戦略

(単位：百万円)

インキ事業

原材料価格上昇等に対応した製品販売価格改定を継続
事業内ポートフォリオ変革により、利益拡大を目指す

26年3月期
事業の外部環境予測次期業績予想達成に向けた
当社の主な取り組み

■ オフセットインキ

・印刷物のデジタル化に伴うペーパーレスの進展や、
小ロット・短納期化によるPOD方式等への移行
により、市場縮小傾向が継続

・オフセット輪転インキへの資源集中を継続

■ グラビアインキ

・フードロス削減に貢献できる高機能食品包装用途や
医薬品包装用途等は堅調に推移

・食品用途における機能性インキ・コート剤と
新たに獲得した医薬包装製品に注力し、
事業規模拡大を図る

■ インクジェットインク

・印刷物の小ロット化、短納期化に対応できる
POD方式の世界市場は今後も拡大が継続

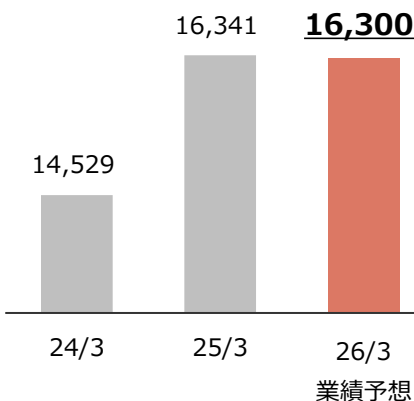
・受託元との関係強化推進と建材用途等の
自社製品の販売強化

■ サステナブル対応製品

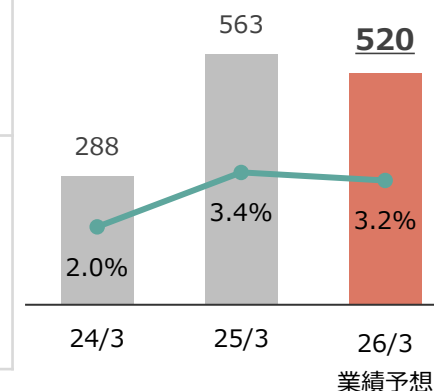
・需要が拡大

・サステナブル対応製品の開発・拡販
(高バイオマスオフ輪インキ、ライスインキ、
機能性コート剤等)

売上高



セグメント利益・利益率



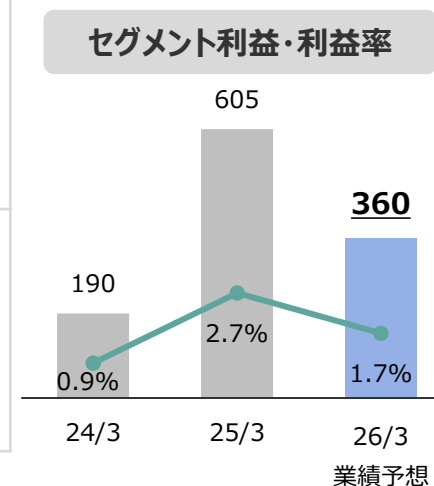
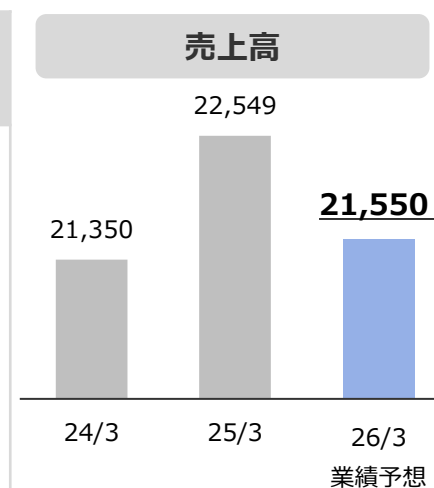
(2) セグメント別戦略

(単位：百万円)

化成品事業

原材料価格上昇等に対応した製品販売価格改定を継続
 自社製品の販売強化とASEAN地域の成長により収益力改善を目指す

	26年3月期 事業の外部環境予測	次期業績予想達成に向けた 当社の主な取り組み
■ 自社製品 ■ 受託製品 ■ 海外（タイ）	・国内自動車生産は堅調に推移 ・鮮度保持やモノマテリアル対応等の高機能品やリサイクル対応製品の潜在的ニーズの高まり ・ASEAN地域の経済成長に伴うプラスチック製消耗材の市場拡大継続 ・一般包材、汎用製品向け着色市場や農業用途は環境対応の加速化による市場縮小継続	・自動車用途は内外装向け製品における顧客ニーズへの対応継続 ・食品包装等の機能性包材用途のニーズ対応 ・リサイクル対応製品へのニーズ対応 ・ASEAN地域への販売活動強化 ・低収益製品の整理 ・受託製品は高付加価値案件の探索
■ サステナブル対応製品	・需要が拡大	・サステナブル対応製品の開発・拡販（液状マスターバッチ、バイオプラスチックベースの着色剤、リサイクル材活用の検討等）



(2) セグメント別戦略

(単位：百万円)

加工品事業

原材料価格上昇等に対応した製品販売価格改定を継続
各製品セグメントの成長・改善により収益拡大を目指す

26年3月期
事業の外部環境予測次期業績予想達成に向けた
当社の主な取り組み

■ ネットロン®

・水処理用資材において、
世界的な水需要の拡大が継続

・重要顧客との関係強化と製品開発実施

■ 一軸延伸フィルム

・汎用用途の市場は縮小するも、一軸延伸フィルムの特長（形状保持性、直進カット性等）を活かせる食品用途や産業用途で一定の需要継続

・食品包装および産業用途の更なるマーケティング強化

■ 土木資材

・国策としての国土強靱化計画を背景に
防災・減災需要増加継続

・ジオセルの新規工法開発や既存工法のブラッシュアップ実施

■ 農業資材

・日本国内の農業市場は縮小傾向も合理化に貢献する遮熱・保温等の機能性農業資材のニーズは引き続き上昇

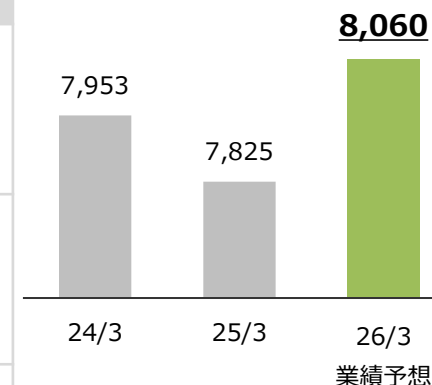
・合理化に貢献する機能性農業資材の開発・拡販実施

■ サステナブル対応製品

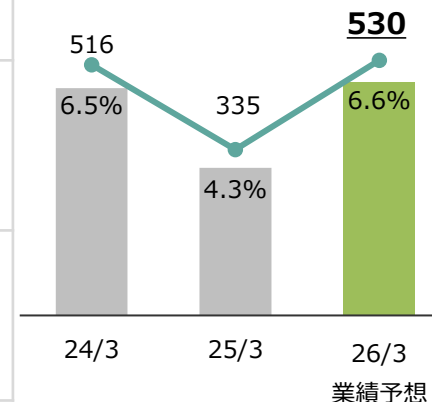
・需要が拡大

・サステナブル対応製品の開発・拡販
（水処理用資材、ジオセル工法、
機能性農業用資材）

売上高



セグメント利益・利益率

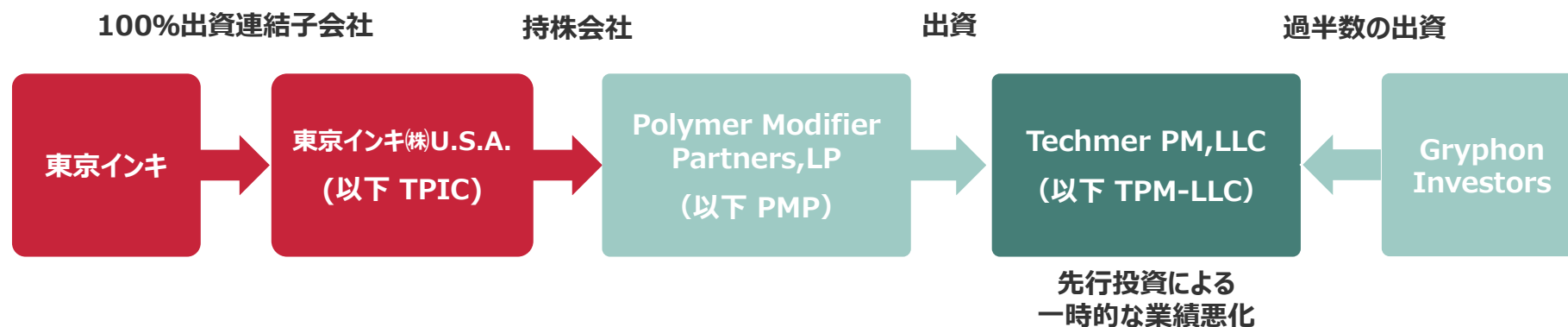


4. 参考情報

TOKYOink

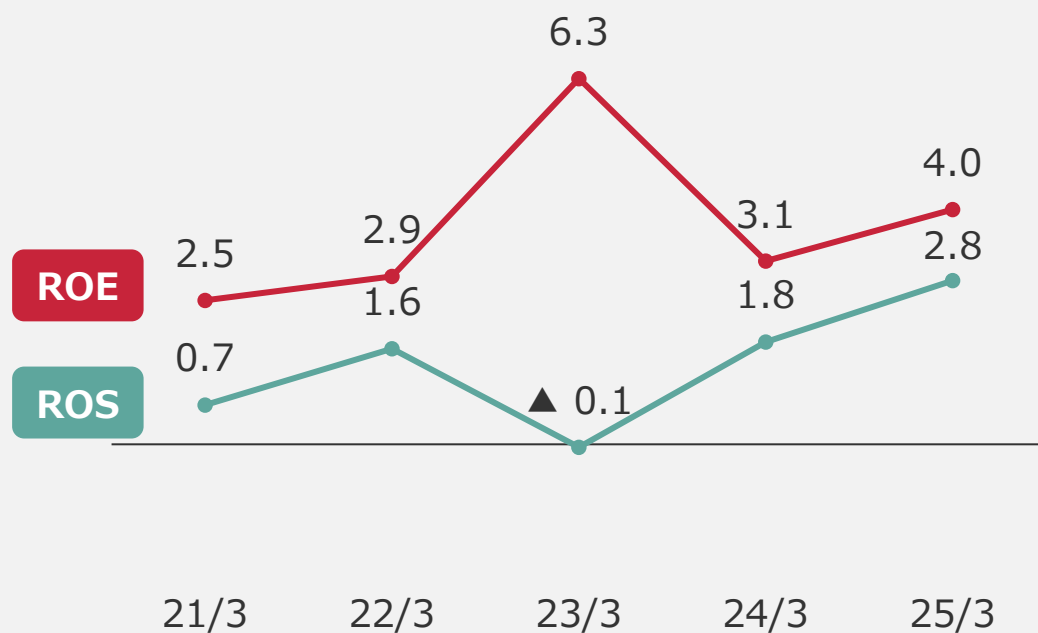


米国連結子会社の出資金運用損について

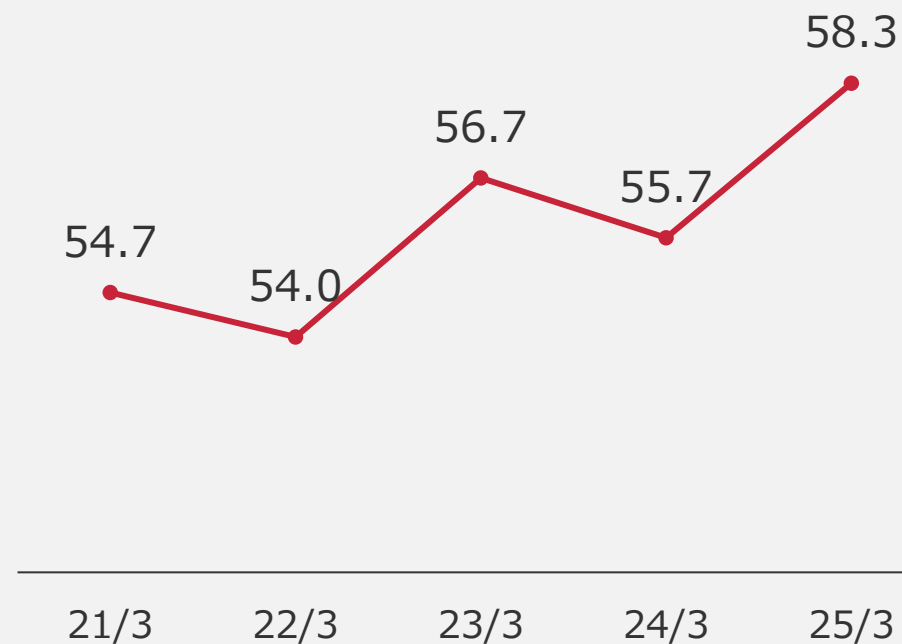


- ・当社の米国連結子会社TPICが出資している持株会社PMPの出資先であるTPM-LLC（化成品事業）の先行投資による一時的な業績悪化および市場環境の変化を踏まえ、のれん相当額の回収可能性を評価
- ・のれん相当額の回収が見込めない部分について、TPICのPMPに対する持分法に伴う出資金運用損（のれん相当額の減損損失）5百万米ドル（円貨換算800百万円）を計上

ROE・ROS



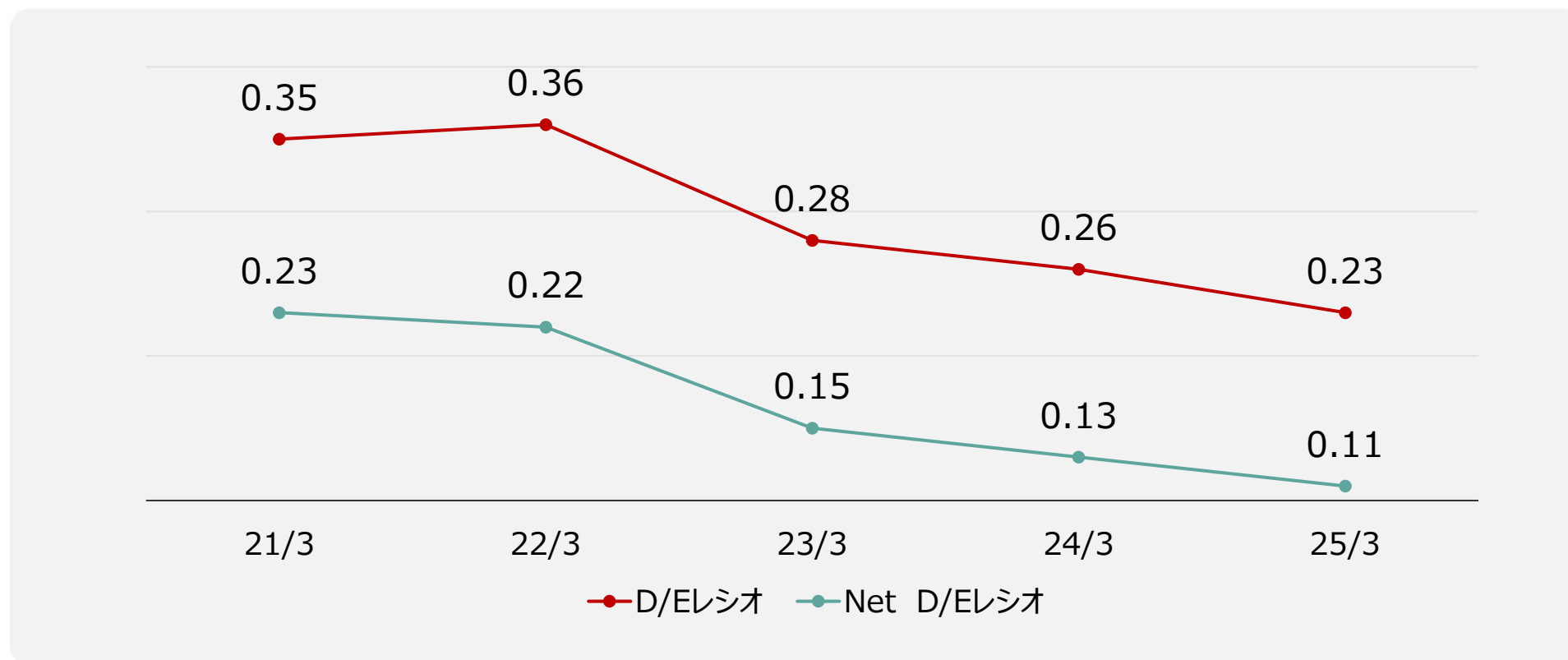
自己資本比率



ROE（自己資本当期純利益率）＝親会社株主に帰属する当期純利益÷(純資産-非支配株主持分)

ROS（売上高営業利益率）＝営業利益÷売上高

- ・有利子負債の削減に伴い、D/EレシオおよびNet D/Eレシオは前年度より更に低下
- ・前中期経営計画「TOKYOink 2024」の目標値である経営指標D/Eレシオ0.3倍以下を達成



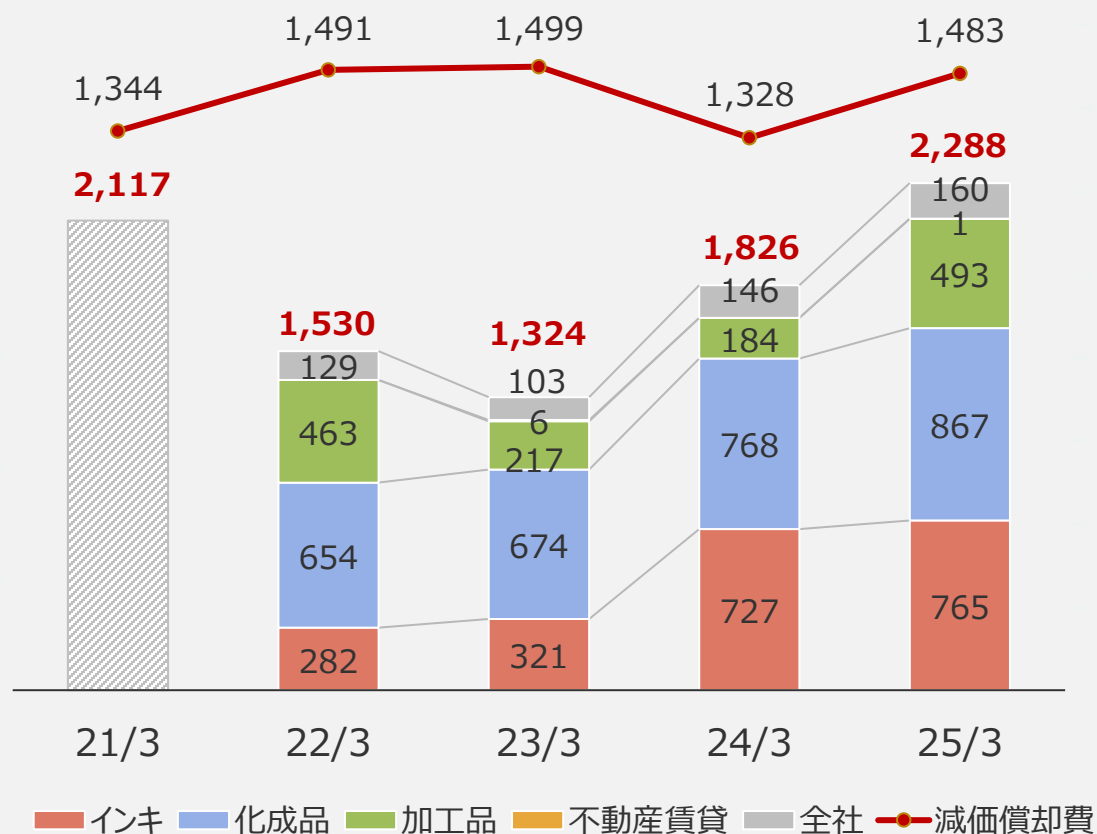
D/Eレシオ：有利子負債／自己資本

Net D/Eレシオ：ネット有利子負債(有利子負債－現預金)／自己資本

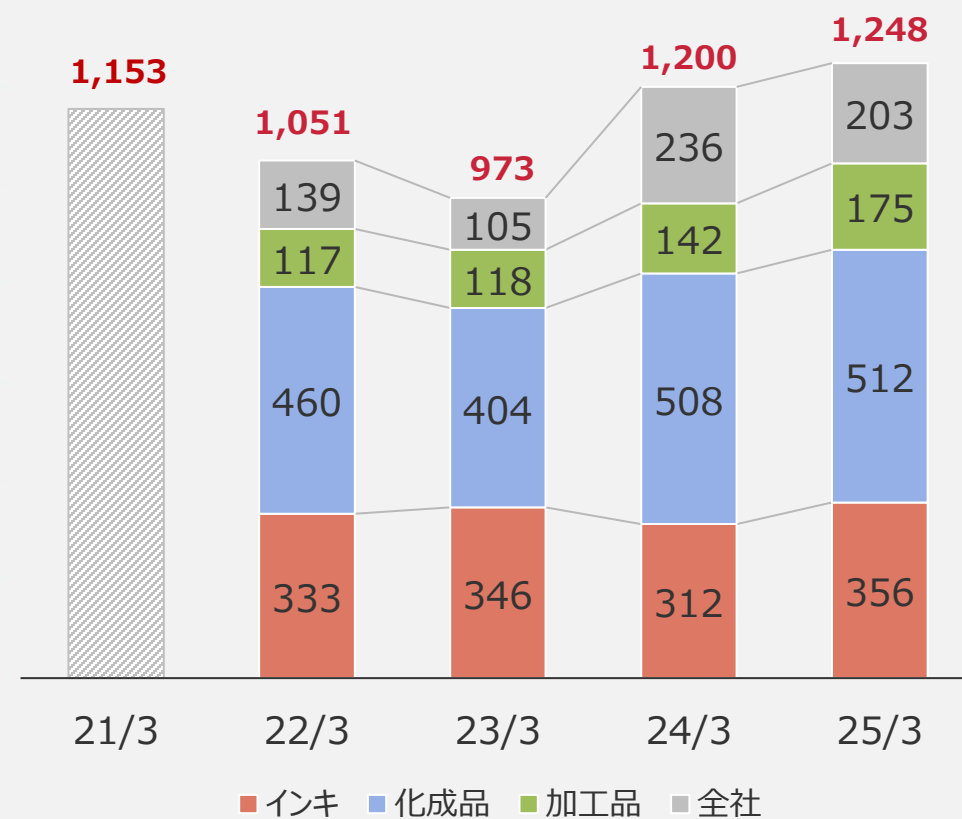
設備投資額・減価償却費・研究開発費推移

(単位：百万円)

設備投資額・減価償却費



研究開発費



※23年3月期より全社費用の区分見直し実施に伴い、22年3月期における各事業の設備投資額・研究開発費を区分見直しの数値に置き換え
21年3月期については当社グループ合計額を記載

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	24年3月期	25年3月期	増減額	増減率 (%)
流動資産	31,111	29,729	▲1,382	▲4.4
固定資産	21,354	21,102	▲252	▲1.2
有・無形固定資産	12,943	13,717	+773	+6.0
投資その他	8,410	7,385	▲1,025	▲12.2
資産合計	52,466	50,832	▲1,634	▲3.1
流動負債	18,105	16,357	▲1,747	▲9.7
固定負債	4,962	4,643	▲319	▲6.4
負債合計	23,067	21,000	▲2,066	▲9.0
純資産合計	29,398	29,831	+432	+1.5
(自己資本比率)	55.7%	58.3%	+2.6pt	—
負債・純資産合計	52,466	50,832	▲1,634	▲3.1

サステナブル対応製品例と主な効果一覧

事業	製品例	主な効果
インキ	高バイオマスオフ輪インキ	インキ中の植物由来溶剤（バイオマス成分）の比率を高めたオフセットインキ。乾燥工程時のGHG排出量削減に貢献。
	ライスインキ	米ぬか油の非食用部分（バイオマス成分）を使用したグラビアインキ。GHG排出量削減に貢献。
	機能性グラビアインキ・コート剤	印刷物にガスバリア性等の機能を付与するために使用される製品。内容物の劣化を防止することでフードロスなど廃棄物削減に貢献。
	産業用インクジェットインク	版を必要としないバリアブル印刷に使用される製品。廃棄物削減に貢献。
化成品	鮮度保持剤マスターバッチ	フィルム製膜時にガスバリア性等の機能を付与するために使用される製品。内容物の劣化を防止することでフードロス等の廃棄物削減に貢献。
	生分解性樹脂用製品	一定期間で分解される生分解性樹脂を材料に使用した製品。農業用フィルム等に使用され、廃棄物削減に貢献。
	加工助剤マスターバッチ	プラスチック成形時に添加することで、品質の安定に寄与する製品。廃棄物の削減に貢献。
	液状マスターバッチ	ペレット状マスターバッチと比べ低温で製造される製品。エネルギー使用量削減に貢献。
加工品	ジオセル各工法	コンクリート工法と比べ軽量であり、施工時に重機を必要としない工法。輸送時のエネルギー削減や、災害による被害の防止・減少に貢献。
	ジオセル各工法周辺部材	
	水処理用資材	水処理用の部材として使用される製品。枯渇資源である水資源確保に貢献。
	機能性農業資材エナジーキーパー	高い断熱性を有する製品。農業ハウスの冷暖房の燃料使用量削減に貢献。

事業	製品名称	説明文
インキ	オフセットインキ (平版インキ)	オフセット印刷用インキ。印刷方式として、輪転、枚葉、新聞輪転等があり、インキタイプとして、油性、水性、UV硬化型、水無し等がある。
	グラビアインキ (凹版インキ)	凹版印刷の一種であるグラビア印刷用インキ。印刷方式として、表刷り、裏刷り等があり、インキタイプとして、溶剤、ノントルエン、水性等がある。また、印刷物に色ではなく機能（酸化防止等）を付与するコート剤（ニス）もある。
	フレキソインキ (凸版インキ)	凸版印刷の一種であるフレキソ印刷用インキ。版が軟質であるため、平滑性が低いダンボール等への印刷に向いている。インキタイプとして、溶剤、水性、UV等がある。
	インクジェットインキ (デジタルインキ)	版を持たないデジタル印刷の一種であるインクジェット印刷用インキ。主に家庭向け、産業向け等がある。インキタイプは染料、顔料等がある。当社はカスタムメイドインクジェットTIC-JET®を展開。
化成品	マスターバッチ	顔料等を分散させた高濃度のプラスチックペレット。使用時はナチュラル（原料）樹脂に対し、3～10%程度希釈するのが一般的。着色剤のほかに機能（酸化防止等）を付与する添加剤等がある。
加工品	ネトロン®	高密度ポリエチレンを網状に成形したプラスチック製品。三井化学株式会社の登録商標。工業用途と包装用途で展開している。水処理用資材は工業用途の主要製品。
	一軸延伸フィルム	高密度ポリエチレンを主とした縦一軸延伸フィルムで、高い形状保持性、縦方向の強度及び直進カット性に優れ、さらに高い透明性と光沢性も兼ね備えたフィルム。食品包装、産業用途等に使用される。
	ジオセル工法	土木資材の主要工法。主にジオセルと周辺部材を組み合わせたジオセル工法を提供。コンクリート工法と比べ、軽量であるため輸送効率が良く、施工が簡単であるため熟練工を必要としない。一部の工法は国土交通省のNETIS（新技術情報提供システム）に登録済。
	ジオセル	高密度ポリエチレンを立体形成した、ハニカム状土壌安定枠の総称。当社製品名はテラセル®、グランドセル®がある。
	周辺部材	ジオセル工法の強度を向上させるための接続部材や摩擦を補助する用心杭等。
	エナジーシリーズ	農業資材の主要製品。優れた保温保冷効果を有する多層断熱被覆資材（布団資材）『エナジーキーパー®』、優れた保温性、軽量でしなやか、適度な湿度コントロールができる内張カーテンである『エナジークロス®』等をラインナップ。

- 
- 本資料は、投資家の皆様に会社内容の理解を深めて頂くための資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。
 - 記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。
また、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。
投資に関する決定は、ご自身のご判断と責任において行われるようお願いいたします。

【お問合せ先】 東京インキホームページお問い合わせフォーム
<https://www.tokyoink.co.jp/contact/>



東京インキ株式会社 管理部門 IRチーム
TEL : 03-5902-7652
E-mail : tic-ir@tokyoink.co.jp

TOKYOink
東京インキ株式会社